

1年次開講科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日・講時
人文社会総論	人文社会科学の世界	4	村山 達也 他	1	前期 水曜日 5講 時、 金曜日 4講時
人文社会序論	現代日本学入門	2	茂木 謙之介・ 伴野 文亮	1	前期 木曜日 3講時
人文社会序論	2セメスターからのフランス語	2	阿部 宏	2	後期 火曜日 4講時
人文社会序論	文化人類学序論	2	越智 郁乃	2	後期 金曜日 4講時
人文社会序論	『三国志』研究入門	2	川合 安	2	後期 火曜日 2講時
人文社会序論	宗教学入門	2	木村 敏明	2	後期 木曜日 2講時
人文社会序論	日本語を分析してみよう	2	小林隆・大木一夫・ 甲田直美	2	後期 月曜日 3講時
人文社会序論	仏教興起時代のインドにおけ る宗教と社会	2	西村直子	2	後期 月曜日 2講時
人文社会序論	留学のすすめ	2	沼崎 一郎	2	後期 火曜日 2講時
人文社会序論	中国伝統思想入門	2	三浦 秀一 齋藤 智寛	2	後期 水曜日 5講時
人文社会序論	現代日本学入門	2	茂木 謙之介・ 伴野 文亮	2	後期 木曜日 3講時
人文社会序論	哲学・倫理入門前——自分で 考えるために	2	直江清隆 原 塑 村山達也	2	後期 水曜日 5講時
英語原書講読入門	英語文献による人文社会入 門	2	戸島貴代志、 村山達也、 荒井崇志、 小松丈晃、 直江清隆、 大貫隆史、 辻本昌弘、 坂井信之	2	後期 水曜日 3講時 または金曜日 3講 時 (指定クラスになります)

科目名：人文社会総論／ General Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時. 前期 金曜日 4 講時

Semester : 1 単位数 : 4

担当教員：村山 達也 ほか

コード：LB00000, 科目ナンバリング：LHM-OHS201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人文社会科学の世界

2. Course Title (授業題目) : World of Humanities and Social Sciences
World of Humanities and Social Sciences

3. 授業の目的と概要： この授業は、文学部の必修科目であり、文学部の学生は1年次の第1 Semester に必ず履修する必要があります。毎週水曜第5時限と金曜第4時限に、文学部の26 全ての専修をそれぞれに代表する教員が各1 回講義を担当します。文学部生は、この全授業を受講し、人文社会科学というものを総合的に理解することが望まれます。課題として合計4 つのレポートを作成し提出してもらうことになります。

第1 回の授業の際に詳しいオリエンテーションを行いますので、必ず出席してください。受講するうえで不明な点等ありましたら、上に名前を挙げた教員に聞いてください。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course is compulsory for all first-year students of the Faculty of Arts and Letters in the first semester. In this course, all the 26 departments at the Faculty of Arts and Letters will offer a lecture on Wednesday 5th period or Friday 4th period. The students are expected to attend all lectures and explore the field of humanity and social science comprehensively. Four essays are required to complete this course.

All students must attend the first class session since an orientation will be conducted. If you have any concerns, please contact the above faculties.

5. 学習の到達目標： 文学部の全専修の講義を受講し、関心あるテーマについてレポートを作成すること等を通して、人文社会科学に対する総合的、基礎的な思考力を身につけるとともに、専門を学ぶ上での目的意識や関心を高める。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will acquire comprehensive and fundamental thinking ability and develop their interests and motivation to achieve their goal when they study specialized subjects while attending all lectures and writing up essays on what they are interested in.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 行動科学の世界/「現代日本学」の世界
3. 英語の詩を読んでみよう (英文学)/日本語学の世界
4. 東洋史の世界/日本語教育学の世界
5. 心理学の世界/日本思想史の世界
6. 倫理学の世界/西洋史の世界
7. 文化人類学の世界/ドイツ文学の世界
8. 哲学の世界/東洋・日本美術史の世界
9. 宗教学の世界/発見と運命 - インド語・宇宙・適者生存 (フランス文学)
10. 「クスッと笑える絵」の世界 (美学・西洋美術史)/日本文学の世界—小説分析のレッスン—
11. 英語学の世界/大学で学ぶ日本史
12. 言語学の世界/社会学の世界
13. 中国文学の世界/中国思想の世界
14. 考古学の世界/インド学仏教史学の世界
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポートと出席とを総合して評価します (比重の目安は、レポート 60%、出席 40%)。

9. 教科書および参考書：

教科書：原研二編『人文社会科学の世紀』(東北大学出版会、2003)、中村捷編『人文科学ハンドブック —スキルと作法』(東北大学出版会、2005)

10. 授業時間外学習：講義を受ける中で自分が関心を持ったテーマについて、講義中に紹介された文献などを手がかりに事象や事例について自分で調べ、レポートを書く準備をしてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

セメスター：1 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介・伴野 文亮

コード：LB00001, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Inovative Japanese Studies

3. 授業の目的と概要：本講義では現代日本学の前提的な知識を提示することによって、日本学という研究領域への導入を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では種々の方法論を提示する。また東北大学という機関における学的資源を活かした日本学の可能性を考える見地から、学内および大学周辺におけるフィールドワークを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the basic knowege of Inovative Japanese Studies to help students understand the characteristics of Japasese Studies. Japasese Studies is a discipline which think about Japan from various points of view. So in this course, the lecturer introduces some methods.

5. 学習の到達目標：受講生が、この授業を通して日本学の基礎を理解し、日本学に対してさらに深い興味を持つようになることが到達目標である。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand Japanese Studies and deepen their interest in Japanese Studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イントロダクション

第2回 日本学の歴史

第3回 日本学の方法論①(文芸史)

第4回 日本学の方法論②(社会学)

第5回 日本学の方法論③(地域史)

第6回 日本学の方法論④(実証史学)

第7回 日本学の方法論⑤(メディア論)

第8回 小括 グループ・ディスカッションとプレゼンテーション

第9回 大学図書館から考える日本学①6/16

第10回 大学図書館から考える日本学②6/23

第11回 「災害アーカイブ」から考える日本学

第12回 大学史料館から考える日本学

第13回 公共博物館から考える日本学

第14回 小括 グループ・ディスカッションとプレゼンテーション

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。各自ノートを取ることを。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：阿部 宏

コード：LB00002, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：2 セメスターからのフランス語

2. Course Title (授業題目)：French from 2nd Semester

3. 授業の目的と概要： 後期から初級フランス語の勉強をはじめめる 1 年生を主として対象としますが、前期からフランス語の学習を開始している学生や 2 年生以上、大学院生も含めて履修可能です。

週 1 回・半年という限定された枠での授業ですので、フランス語の読む・書く・聞く・話すという総合力よりは、初級文法の学習と読解力の養成を中心にします。

主要な仏和、仏英、仏々辞典の使い方、文法事典の使い方、インターネット等を利用した聞き取り能力養成方法など、教室以外での勉強の仕方についても具体的に説明したいと思います。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： This class is mainly intended for first-year students who will begin studying elementary French in the second semester, but can also be taken by students who have begun studying French in the first semester, second-year students and above, and graduate students.

Since the class is limited to once a week for half a year, the focus will be on elementary grammar and reading comprehension rather than comprehensive French reading, writing, listening and speaking skills.

I will also explain how to study outside the classroom, such as how to use major French-Japanese, French-English, and French-English dictionaries, how to use grammar encyclopedias, and how to use the Internet to develop listening comprehension skills.

5. 学習の到達目標：・フランス語の綴り字の読み方がわかる。

・フランス語の基礎的な文法がわかる。

・フランス語の平易な文章が読めるようになる。

・フランス語の辞典等の有効な使い方がわかるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand how to pronounce French spelling

Understand basic French grammar

To be able to understand simple French sentences

To be able to use French dictionaries

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 綴り字と発音

3. avoir (have) と être (be)

4. その他の動詞

5. 名詞の性

6. 近接過去と近接未来

7. 形容詞

8. 否定文

9. 比較

10. 複合過去

11. 半過去

12. 仮定文

13. 条件法

14. 接続法

15. まとめと筆記試験

8. 成績評価方法：

平常点 50%. 筆記試験 50%

9. 教科書および参考書：

教科書：教室で指示します。

参考書：佐藤康 (2005) 『フランス語のしくみ』白水社。

10. 授業時間外学習：教室外での学習の仕方について、様々アドヴァイスしますので、適宜関連する学習を行ってください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB00003, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学序論

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：この授業は文化人類学の入門である。文化人類学とは、主としてフィールドワークを通じて異文化について研究し、そこから相対的な視野と思考力を養おうとする学問である。文化人類学の基礎的な知識を学ぶとともに、フィールドワークの体験を通して、この学問の特徴を知ってもらいたい。

授業は大きく分けて、(1) 文化人類学の考え方についてのレクチャーと討論、(2) 学内でのフィールドワーク体験、(3) 民族誌の講読、(4) レポートの作成の 4 つから成る。主な内容は、講義を聴き、議論し、課題をこなしてゆき、最終的にレポートを作成することである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class is an introduction to cultural anthropology. Cultural anthropology is a discipline that studies different cultures mainly through fieldwork, in order to develop a relative perspective and thinking ability. Students will learn the basic knowledge of cultural anthropology and understand the characteristics of this discipline through fieldwork experiences.

The class consists of four sections. The class will consist of four sections: (1) lecture and discussion on the concept of cultural anthropology, (2) fieldwork experience in kawauchi campus, (3) reading ethnography, and (4) report writing. The main content of the class is to listen to lectures, discuss, complete assignments, and finally write a report.

5. 学習の到達目標：文化人類学がいかなる学問で、どのような考え方と方法のもとに研究を進めていくのかについての基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Learn the basics of what cultural anthropology is and how to conduct research based on the ideas and methods of the discipline.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション:文化とは、文化人類学とは
2. 文化人類学の考え方① 家族、親族、社会関係、つながり
3. 文化人類学の考え方② 結婚しなくてもいいじゃない
4. 文化人類学の考え方③ 性とジェンダー：男/女を考える
5. 文化人類学の考え方④ 宗教：世界をどう見るか、何を「信じる」か？
6. 文化人類学の考え方⑤ 儀礼：時間の流れに区切りをつける
7. 文化人類学の考え方⑥ 観光：あえて「偽物」を楽しむ
8. フィールドワークをしてみよう① 非参与観察とインタビュー入門
9. フィールドワークをしてみよう② 非参与観察報告会
10. フィールドワークをしてみよう③ インタビュー報告会
11. 民族誌を読んでみよう①
12. 民族誌を読んでみよう②
13. レポートを構想する
14. レポート構想発表会
15. まとめ：文化人類学を学んで

8. 成績評価方法：

中間レポート [30%]、出席・討論参加 [30%]、最終レポート [40%]

9. 教科書および参考書：

[教科書]『ようこそ文化人類学へ』川口幸大著、2017、昭和堂

参考書については、授業で適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：毎週、その回の授業内容に沿った課題を出す。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LB00004, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『三国志』研究入門

2. Course Title (授業題目)：SANGUOZHI (Reading)

3. 授業の目的と概要：東洋史の中でも、特に中国前近代史の場合、漢文で書かれた史料（歴史書や文書など）を読むことが必須である。本講義では、単に従来知られている歴史事実を記憶するのではなく、自ら史料を読んで歴史を探究することを体験してもらうことを目的とする。歴史書『三国志』を素材として、それを読む際に必要な基礎知識を学んだ上で、実際に『三国志』の「魏書」袁紹伝を原文で読んでみる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read the Chinese classics as historical materials by reading "Sanguozhi" (三国志).

5. 学習の到達目標：自らの手で漢和辞典や参考資料を利用しながら、史料を読んで歴史を探究することを体験し、その初歩的方法を体得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the primary ability to read the Chinese classics as historical materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

最初の 4 回は講義形式で行い、5 回目以降は演習形式で行う。

- 1、はじめに：中国史における三国時代
- 2、『三国志』を読むための基礎知識（1）『三国志』とはどういう書物か
- 3、『三国志』を読むための基礎知識（2）漢文の語法
- 4、『三国志』を読むための基礎知識（3）三国時代の官職や地名の調べ方
- 5、『三国志』袁紹伝を読む：袁紹の生い立ち
- 6、『三国志』袁紹伝を読む：袁紹、宦官を殺害
- 7、『三国志』袁紹伝を読む：袁紹、冀州へ出奔
- 8、『三国志』袁紹伝を読む：袁紹と董卓の抗争
- 9、『三国志』袁紹伝を読む：袁紹と献帝
- 10、『三国志』袁紹伝を読む：袁紹と劉備
- 11、『三国志』袁紹伝を読む：官渡の戦い
- 12、『三国志』袁紹伝を読む：袁紹と田豊
- 13、『三国志』袁紹伝を読む：袁紹の死とその継承をめぐる争い
- 14、『三国志』袁紹伝を読む：曹操、冀州を平定
- 15、おわりに：授業の総括

8. 成績評価方法：

毎回の授業で課す課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：渡邊義浩著・三国志学会監修『三国志研究入門』日外アソシエーツ株式会社、2007 年
ほかは、授業で紹介する。

10. 授業時間外学習：授業時間外に課題（漢文史料の訳注）を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：木村 敏明

コード：LB00005, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Religious Studies

3. 授業の目的と概要：本授業では、宗教学の基本的なものの見方と主要なテーマについて、次のような方法で理解することを目指す。具体的には、次のような内容を含む。

1. 宗教学の基本的なものの見方について、教員が簡単な講義を行ったのちに、討論を行う。

2. 宗教に関する新聞記事から、各自（受講生の数によっては班単位）で興味を持った話題を選び、その社会的、学術的背景や意義について調べて発表をする。

3. 活きた宗教に触れる。幾つかの宗教の信者、あるいは宗教者にそれぞれの宗教について語ってもらい、議論をする。また、地域の宗教施設において民衆の祈願に関するフィールドワークを一回行うことも予定されている。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to help students understand basic viewpoints and important theme of religious studies through class works as below.

1. Group discussion after shrot lecture on basic viewpoint of religious studies.

2. Group presentation on a topic that each group choose from articles of newspapers.

3. A fieldwork on a religious site and dialogues with some religious persons are planed.

5. 学習の到達目標：宗教学の基本的な知識と技法を身につけることができる。

現代の宗教をめぐる諸問題について知ることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain basic knowledge and skills required in religious studies.

Students will understand religious conditions in modern society.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

イントロダクション

2. 準備作業

3. 講義と討論 1. 宗教とは何だろう

4. 講義と討論 2. 教育と宗教

5. 講義と討論 3. 宗教の社会貢献

6. 新聞発表の準備.

7. 新聞発表 1.

8. 新聞発表 2.

9. 新聞発表 3.

10. 新聞発表 4.

11. 活きた宗教に触れる 1. 神仏への願い（神社調査準備）

12. 活きた宗教に触れる 2. 神仏への願い（神社調査を予定）

13. 活きた宗教に触れる 3. 日本におけるイスラーム（仙台マスジド代表による講演を予定）

14. 活きた宗教に触れる 4. 宗教による社会貢献の新展開（臨床宗教師による講演を予定）

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表、議論への参加状況。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：発表準備。

Preparation for presentation

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：小林隆・大木一夫・甲田直美

コード：LB00006, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語を分析してみよう

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Japanese Linguistics

3. 授業の目的と概要：日本語は、われわれのもっとも身近にある言語である。とはいえ、実際にはわからないこともさまざまにある。その日本語とはどのような言語であるのか、また、その日本語はどのように運用されているのか。そのような課題に答えるのが、日本語学という学問分野である。ここでは、この日本語学の考え方にもとづいて、現代日本語をさまざまな側面から考えてみる。まず、はじめに日本語学の考え方や分野について概説する。その後、日本語についての調査・分析を参加者自身がおこなっていく。日本語の方言を含むさまざまな日本語についての考察、現代日本語の具体的な運用についての考察をすすめ、報告、議論をおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course deals with the basic issues of Japanese linguistics and how they have been treated in the field of linguistics. You'll get an introduction to the main approaches used in linguistic research, including linguistic structure, phonetics, dialects, history, and discourse analysis. You'll apply the key methods used in linguistic descriptions to the analysis of your language, and discuss them with your classmates.

5. 学習の到達目標：(1) 日本語学の考え方、日本語をとらえる方法の基本を説明することができるようになる。

(2) 簡単な言語調査ができるようになる。

(3) 言語調査の結果を分析・報告し、それについて議論ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, you should

(1) be familiar with some of the terminology and techniques of linguistic analysis

(2) be able to apply this knowledge to a simple language survey

(3) be able to analyze and report your language survey

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ガイダンス、日本語を知っているか

第2回 日本語はどのような言語か

第3回 日本語の発音

第4回 日本語の文法

第5回 語の意味

第6回 方言とは何か

第7回 方言調査のためのツール

第8回 身近な方言を調べてみよう

第9回 方言の歴史を調べてみよう

第10回 新しい方言を調べてみよう

第11回 文と文章、発話と会話

第12回 文章・会話のデータ

第13回 文章の分析

第14回 会話の分析

第15回 レポートへ向けて：日本語の分析

8. 成績評価方法：

講義内の課題・参加態度 (40%)、レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使わない。プリント使用。必要なテキスト等はコピーして配布する。

参考書は授業内で随時提示する。

10. 授業時間外学習：(1) ふだんから、身の回りにある日本語をよく観察し、講義にかかわるような現象がないか、また、自分自身で気になる現象はないか、随時考えた上で、この時間にのぞむこと。

(2) 授業内で指示された言語調査をおこなうこと。また、必要な分析をおこなうこと。

(3) 授業内で扱うテキストを事前に丁寧に読み、疑問点を整理しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者の積極的な参加・活動におおいに期待している。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：西村直子

コード：LB00007, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：仏教興起時代のインドにおける宗教と社会

2. Course Title (授業題目) : Religion and society in early Buddhist India

3. 授業の目的と概要：本授業では、A. L. Basham, History and Doctrines of THE ĀJĪVIKAS. A Vanished Indian Religion (アージーヴィカ教の歴史と教理. インドの消滅した宗教) (London 1951) 原文の講読を通じて、仏教興起時代（紀元前 5 世紀頃）に至るインドの宗教と社会の成り立ちを紹介する。受講者は予習として Basham の英語原文を和訳し、その内容について講師が解説する。サンスクリット語、パーリ語、並びにこれらの言語で伝承される原典についても随時紹介し、インドの言語文化に直接触れることのできる機会を提供する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course introduces overview of the history of religion and society in early Buddhist India (c. 5C. B.C.) based on A. L. Basham, History and Doctrines of THE ĀJĪVIKAS: A Vanished Indian Religion (London 1951). Students will translate some parts of this book into Japanese as preparation for the class. They also listen to lectures on the history of Indian Buddhism. This class will offer students an opportunity to get familiar with some passages of the Veda or Buddhist Canon traditioned in Sanskrit and Pāli, the languages of ancient India.

5. 学習の到達目標：仏教興起時代におけるインドの宗教と社会の成り立ちについて、初歩的な理解を得る。サンスクリット語、パーリ語についての理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course is designed to help students understand religion and society in early Buddhist India. Students will also deepen their interest in languages in ancient India: Sanskrit and Pāli.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション インドの歴史と言語
2. 講義① 仏教前史
3. 講義② インド仏教史
4. 講読ならびに解説
5. 講義③ ブッダの生涯 誕生から出家まで
6. 講読並びに解説
7. 講義④ ブッダの生涯 出家から涅槃まで
8. 講読並びに解説
9. 講義⑤ 仏典『沙門果経』
10. -14. 講読ならびに解説
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業の準備状況 30%，授業及び提出物で示される理解度 30%，期末レポート 40%

9. 教科書および参考書：

A. L. Basham, History and Doctrines of THE ĀJĪVIKAS. A Vanished Indian Religion. (必要な箇所を配布する)

10. 授業時間外学習：講読に際しては和訳を準備すること。

講義の前には、前回までの講義内容の中に不明な点がなかったかを、プリントやノートで確認し、講義後には、その日の内容に不明な点がないかを確認する。不明な点があれば、メモしておくこと。特に、素朴と思えるようなものでも疑問は放置せず、質問してください。質問は歓迎します。

Students are required not only to submit class assignments but also to review each class using handouts. If there remain any parts they cannot understand, they should ask questions in the next class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎

コード：LB00008, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：留学のすすめ

2. Course Title (授業題目)：Let's Study Abroad

3. 授業の目的と概要：留学の魅力を紹介し、留学への意欲を掻き立てるとともに、留学準備の進め方を指導する。セメスターの前半は、世界各地に留学した体験を持つ文学部生の体験談を聞き、質疑応答を通して、留学の実情を知ってもらうことを中心とする。後半は、留学手続きの進め方、特に東北大学の交換留学制度の使い方を説明し、交換留学の志望動機書と学習・研究計画書の書き方を指導する。また、語学学習についても、アドバイスを提供する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Introduces students to the international exchange programs at Tohoku University. Guest speakers will lecture on their experience of studying abroad. Instructions on how to write application forms will be given.

5. 学習の到達目標：(1) 留学に興味を持つ。

(2) 留学手続きの知識を得る。

(3) 留学計画を立ててみる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Develop interests in studying abroad.

(2) Acquire knowledge of international exchange programs.

(3) Start planning to study abroad.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業方式は学期開始前にアナウンスする。

1. 導入 授業法の説明
2. 東北大学の交換留学制度の概要
3. 短期留学者の体験談を聞く (1) オーストラリア
4. 短期留学者の体験談を聞く (2) ベトナム
5. 短期留学者の体験談を聞く (3) ニュージーランド
6. 長期留学者の体験談を聞く (1) イタリア1 (含イギリス短期留学)
7. 長期留学者の体験談を聞く (2) イタリア2
8. 長期留学者の体験談を聞く (3) ベルギー
9. 長期留学者の体験談を聞く (4) 韓国1
10. 長期留学者の体験談を聞く (5) 韓国2
11. 長期留学者の体験談を聞く (6) 中米
12. 卒業生の留学体験を聞く (1) メキシコ
13. 卒業生の留学体験を聞く (2) ベトナム
14. 交換留学申請書の書き方
15. 総括

なお、プレゼンテーションの順番および内容は、諸般の事情により変わることがある。

8. 成績評価方法：

毎回のリアクションペーパー (50%) と、交換留学申請書 (志望動機と学習・研究計画) の作成 (50%) による。出席を重視して成績を評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使わない。参考書は、適宜教指示する。

10. 授業時間外学習：海外の大学について、ウェブサイトを見るなどして、実際にリサーチする。交換留学申請書の下書を作成する。自分の推薦状を自分で書いてみる。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

留学に興味のある人はもちろん、留学に興味のない人もぜひ受講して欲しい。実際に留学した経験のある先輩の話聞くことで、留学について具体的なイメージを持つことができるようになるだろう。

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：三浦 秀一、齋藤 智寛

コード：LB00009, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国伝統思想入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Chinese traditional thought

3. 授業の目的と概要：中国思想専修の志望者および広く中国の思想や古典に関心のある学生を対象として、中国における伝統思想の諸相を紹介、解説する。授業は導入とまとめを除いて 5 回の講義と 8 回の原典講読から構成され、講義においては、儒仏道三教、朱子学、陽明学といった中国思想の代表的な諸学派における思想や、学派間の論争を解説、検討する。原典講読では、日本の江戸時代から明治時代にかけての漢学者による漢文や漢文訓読体の文章を読み、漢語・漢文による思惟にじかに触れるとともに、本邦における中国研究の流れにも一定の理解を得る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides explanations of various aspects in Chinese traditional thought to students majoring in Chinese philosophy or being interested in classical Chinese. In order to come in touch with thinking of classical Chinese and learn about a history of Chinese studies in Japan, this class consists of 5 times lectures and 8 times readings expect for a guidance and a conclusion, in the lectures, lecturers will explain some famous Chinese schools such as the three teachings or Confucianism, Buddhism and Daoism, the Neo-Confucianism of Zhu Xi and Wang Yangming, also examine controversies between each schools. In the readings, students will read the works of Japanese scholars written by classical Chinese or Kanbun style(a writing style modeled after a translation of a classical Chinese text into Japanese) .

5. 学習の到達目標：中国古典思想の各学派について初歩的な理解を得る。思想・哲学的内容を持った漢文や漢文訓読体の文章が理解できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire primary understanding about some famous schools of Chinese classical thought, and reading skills for the philosophical works written by classical Chinese or Kanbun style.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (三浦、齋藤)
2. 講義①「儒家と道家」(齋藤)
3. 講読 1 (三浦)
4. 講読 2 (三浦)
5. 講義②「朱子学」(三浦)
6. 講読 3 (齋藤)
7. 講読 4 (齋藤)
8. 講義③「仏教と中国固有思想」(齋藤)
9. 講読 5 (三浦)
10. 講読 6 (三浦)
11. 講義④「陽明学」(三浦)
12. 講読 7 (齋藤)
13. 講読 8 (齋藤)
14. 講義⑤「史学、科学、芸術論」(齋藤)
15. まとめ (三浦)

8. 成績評価方法：

小レポート (50%)、原書講読の予習状況と討論での発言状況 (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せずプリントを配布する。参考書は講義中に随時紹介する。

10. 授業時間外学習：原書講読の週には、辞書、事典類を用いて予習しておくこと。また、参考書を読んで討論やレポートに備えること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介・伴野 文亮

コード：LB00010, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Inovative Japanese Studies

3. 授業の目的と概要：本講義では現代日本学の前提的な知識を提示することによって、日本学という研究領域への導入を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では種々の方法論を提示する。また東北大学という機関における学的資源を活かした日本学の可能性を考える見地から、学内および大学周辺におけるフィールドワークを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the basic knowege of Inovative Japanese Studies to help students understand the characteristics of Japasese Studies. Japasese Studies is a discipline which think about Japan from various points of view. So in this course, the lecturer introduces some methods.

5. 学習の到達目標：受講生が、この授業を通して日本学の基礎を理解し、日本学に対してさらに深い興味を持つようになることが到達目標である。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand Japanese Studies and deepen their interest in Japanese Studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イントロダクション

第2回 日本学の歴史

第3回 日本学の方法論①(文芸史)

第4回 日本学の方法論②(社会学)

第5回 日本学の方法論③(地域史)

第6回 日本学の方法論④(実証史学)

第7回 日本学の方法論⑤(メディア論)

第8回 小括 グループ・ディスカッションとプレゼンテーション

第9回 大学図書館から考える日本学①6/16

第10回 大学図書館から考える日本学②6/23

第11回 「災害アーカイブ」から考える日本学

第12回 大学史料館から考える日本学

第13回 公共博物館から考える日本学

第14回 小括 グループ・ディスカッションとプレゼンテーション

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。各自ノートを取ることを。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：人文社会序論／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：直江清隆、原 壱、村山達也

コード：LB00011, 科目ナンバリング：LHM-OHS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学・倫理入門前——自分で考えるために
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Philosophy
3. 授業の目的と概要：哲学的な議論・思考にふれて、自らやってみて、なじんでいってもらうことが目的です。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides students with opportunities to experience philosophical discussions, and do philosophy by themselves.
5. 学習の到達目標：哲学のトピックをめぐって思考し、議論できるようになること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop basic skills necessary for thinking and discussing philosophical issues.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業の実施形態：対面

哲学専修または倫理学専修への進学を考えている文学部 1 年生の方が主な対象です（下の「その他」参照）。
クラス内でのディスカッションが中心です。人前で話すのが苦手な方は、授業外に TA や教員にメールを送るなどの形でディスカッションに参加することも可能です。
授業中に短いプレゼンテーションをするか、小レポートを提出するかしてもらいます。プレゼンやレポートのやりかたやテーマは教員か TA と相談して、追い追い決めていきます。

【以下の予定には変更があり得ます。】

1. ガイダンス
 2. トピックを探しながら自由に論じよう (1)
 3. トピックを探しながら自由に論じよう (2)
 4. トピックを探しながら自由に論じよう (3)
 5. トピックを探しながら自由に論じよう (4) 小レポート
 6. 知るとは何かについての哲学対話 (1)
 7. 知るとは何かについての哲学対話 (2)
 8. 知るとは何かについての哲学対話 (3)
 9. 知るとは何かについての哲学対話 (4) 小レポート
 10. 現代倫理学のトピック (1)
 11. 現代倫理学のトピック (2)
 12. 現代倫理学のトピック (3)
 13. 現代倫理学のトピック (4) 小レポート
 14. まとめ (1)
 15. まとめ (2)
8. 成績評価方法：
プレゼンテーションまたは小レポート（授業中）：60%、出席およびのパフォーマンス：40%。相互評価を導入することもある。
9. 教科書および参考書：
教科書：直江清隆編『高校倫理の古典で学ぶ 哲学トレーニング 2 ——社会を考える』（岩波書店、2016 年）
（『高校倫理の古典で学ぶ 哲学トレーニング 1 ——人間を理解する』（岩波書店、2016 年）も参考図書に挙げておきます。）
10. 授業時間外学習：授業中のディスカッションをめぐって考えたり、予告されたテーマについて考えたりし、次回の授業での発言を準備する（または TA や教員にメールする）。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
哲学専修・倫理学専修への進学を考えている学生はなるべく履修してください。
他学部の学生は、履修登録前に、担当教員に相談してください（授業初回などに直接会って話すのでも、電子メールでも）。

科目名：英語原書講読入門／ Introduction to Academic Reading in English

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時、後期 金曜日 3 講時

Semester : 2 単位数 : 2

担当教員：戸島貴代志、村山達也、荒井崇志、小松丈晃、直江清隆、大貫隆史、辻本昌弘、坂井信之

コード：LB00012, 科目ナンバリング：LHM-OHS202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語文献による人文社会入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Humanities through Reading English Documents

3. 授業の目的と概要：本授業では、各授業担当者の専門領域に関わる内容の英語文献を講読します。英語原書文献の読解力は二年次以降の学習・研究にとって重要であるばかりでなく、文学部卒業生に期待される基礎学力として欠かせません。英語原書文献の正確な読解には、語学的読解力と論旨を正確に把握する思考力が必要となります。加えて、トピックの背景知識や、その他の一般的知識も必要です。したがって、英語辞書等の活用に加えて、語学以外の側面についても自ら調べる姿勢が重要となります。本授業では、専門課程で必要となる「読み方」や「調べ方」を身につけてもらうことを特に重視します。各授業の具体的内容は授業紹介を参照してください。また、授業方法、評価方法等の詳細は、授業開講時に各担当者が指示します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to develop students' skill of reading English texts in humanities. The ability of reading English is required not only in the courses offered in undergraduate and graduate programs, but expected as a fundamental skill of graduates from our school. In reading academic English, you need to have the ability to think logically and critically, as well as the precise knowledge of English grammar. Moreover, because the background knowledge is often required to understand the text, the ability of finding necessary information is very important. In this course, therefore, students are expected to acquire both the skill of reading and of finding information. As for the content of each class, look at the course description. At the first class, teachers will give students detailed information about the text, grading, and how the class will proceed.

5. 学習の到達目標：(1)英語原書文献の読解力が身につく。

(2)文献の批判的講読の仕方が身につく。

(3)理論的思考力が身につく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)To develop the skill of reading academic English

(2)To be able to read texts critically

(3)To be able to think logically

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) イントロダクション

2) 学術英語の読解演習 (1)

3) 学術英語の読解演習 (2)

4) 学術英語の読解演習 (3)

5) 学術英語の読解演習 (4)

6) 学術英語の読解演習 (5)

7) 学術英語の読解演習 (6)

8) 学術英語の読解演習 (7)

9) 学術英語の読解演習 (8)

10) 学術英語の読解演習 (9)

11) 学術英語の読解演習 (10)

12) 学術英語の読解演習 (11)

13) 学術英語の読解演習 (12)

14) 学術英語の読解演習 (13)

15) 学術英語の読解演習 (14)

8. 成績評価方法：

各担当教員が授業開始時に指示します。

9. 教科書および参考書：

各担当教員が授業開始時に指示します。

10. 授業時間外学習：予習段階であらかじめ教材に目をとおしておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

1～4 クラスは水曜日 3 校時

5～8 クラスは金曜日 3 校時

様式 10

英語原書講読入門授業紹介

<p>クラス1 水・3 担当 戸島 貴代志</p> <p>人間中心のデジタル社会」ではなく「デジタル中心の人間社会」ということが提唱される現代社会において、そもそもこのデジタル化の根底をなす思想は何か。この授業ではビル・ゲイツの著書をゆっくり読んでいこうと思います。英語の読解力とデジタルの本質を考える思考力の獲得を目指します。</p> <p>テキスト：授業中にプリントを配布します。</p>
<p>クラス2 水・3 担当 村山 達也</p> <p>善悪、幸福、愛、死などの、倫理学の中心的な主題を扱った、入門的なテキストを読みます。英語で書かれた文章のニュアンスや論理構造をどう汲み取るか、それを日本語でどう表現するか、といったことに特に留意します。一文一文を丁寧に訳していきますので、事前に十分に予習し、訳を準備しておいてください。</p> <p>テキスト：プリントを配布します。</p>
<p>クラス3 水・3 担当 荒井 崇志</p> <p>私たちは他者にどのような影響を与え、逆に他者からどのような影響を受けているのでしょうか。そもそも、私たちは他者をどのように認識しているのでしょうか。この授業では、英文の心理学入門書を読むことを通して、こうした問題を考えてみたいと思います。</p> <p>テキスト：授業開始時にプリントを配布します。</p>
<p>クラス4 水・3 担当 小松 丈晃</p> <p>この授業では、イギリスの社会学者A.Giddensらによる定評ある社会学のテキストの最新版を取り上げます。社会学の近年の展開状況も加味しつつ基礎的な学術的読解法を身につけていきましょう。授業では、全員に一文ずつ丁寧に翻訳してもらいますので、入念に予習をしてきてください。</p> <p>テキスト：プリントを配布します</p>
<p>クラス5 金・3 担当 直江 清隆</p> <p>この授業では、自由に関する哲学者の論文ないし講演録を読みながら、英語の原書に親しんでいくことにしたいと思います。きちんと訳することを基礎に、内容を理解して考えることが重要になります。</p> <p>テキスト：教材は授業開始時にプリントを配布します。</p>
<p>クラス6 金・3 担当 大貫 隆史</p> <p>グローバル化という言葉が日常的なものになって久しいですが、他の言語圏から日本語圏の「文学的文化(literary culture)」がどのように見えているのか、という(じつは)重要な問題が十分に意識されていないように思います。このクラスでは、英語で記述された日本近代文学の研究書を読むことで、英語圏から日本語圏の「文学的文化」を見ることにまつわる諸問題を考えていくことを予定しています。</p> <p>テキスト：プリントを配布します。</p>
<p>クラス7 金・3 担当 辻本 昌弘</p> <p>英文による社会心理学の入門書を読みます。社会心理学とは、人間関係など人の社会性を調べる学問分野です。授業では、英文を丁寧に翻訳しながら、英文の議論展開をきちんと捉える練習をします。あわせて社会心理学の簡単な解説も行います。</p> <p>テキスト：プリントを配布します。</p>
<p>クラス8 金・3 担当 坂井 信之</p> <p>「食べる」という行為は生きて行くために必須ですが、私たちヒトは生きるためだけに食べているわけではありません。この授業では、「食べる」という行為の文化的・心理学的側面を理解するために、Taste Culture ReaderあるいはFood and Cultureという大学初年度生向けにまとめられたアンソロジー本の一部を読み進めます。テキスト：授業開始時にプリントを配布します。</p>